萌芽的研究・実践セッション（発表と対話）

主発表者：前田絢子（SOLUNA 出張助産院）

連名発表者：石山裕菜（京都橘大学総合心理学部）

○ タイトル

包括的性教育の理念を高齢者に応用する意義と課題

○ 発表概要

ユネスコは、包括的性教育（CSE）を、セクシュアリティの認知的・感情的・身体的・社会的側面を学ぶ、カリキュラムに基づく教育の過程と定義し、健康、尊厳、人権、ジェンダー平等、他者を尊重する関係性を重視している（UNESCO et al., 2018）。同指針は主に子ども・若者を対象とするが、その理念は高齢期にも関わる。高齢期にも性的活動や性の健康課題は存在する（Lindau et al., 2007）。しかし、日本の高齢者が同意や身体の自己決定、多様性を体系的に学ぶ機会をどの程度得てきたかは、検討すべき課題である。また、日本ではジェンダー格差が依然として課題であり、社会の意思決定に参加する高齢者を含め、幅広い世代の学習機会を検討する意義がある。そこで本研究では、CSE の理念を高齢者の生活経験と支援ニーズに即して応用し、デイケア等における教育プログラムの実施可能性と受容性を検討する。同意と境界線、介助場面での身体の自己決定、性別役割、多様な生き方を取り上げ、高齢者自身の尊厳と権利を支える学習機会のあり方を探る。

【引用文献】

・*Lindau, S. T., et al. (2007). A study of sexuality and health among older adults in the United States. New England Journal of Medicine, 357, 762–774. https://doi.org/10.1056/NEJMoa067423.*

・*UNESCO (2018) International technical guidance on sexuality education: An evidence-informed approach. https://doi.org/10.54675/UQRM6395.*